



KANAIWA ONO
ART PROJECT

金石スタジオ 通信

6

金石21世紀美術館が進めている金石大野芸術計画(Kanaiwa Ono Art Project)のその活動の拠点となっている金石スタジオ(金石西2丁目17-23)から、毎月みなさまに、最新情報をお届けするニュースレターです。

お知らせ

今後の活動に

ついて

こんにちは。金石スタジオでのイベントが休止してはや三ヶ月が経ち、いつの間にか夏の日差しになってきましたね。しばらく休館していた金石21世紀美術館ですが、全国の緊急事態宣言解除を受け、六月末の再開館にむけて動きはじまりました。金石大野でのプログラムも、町の状況に合わせて少しずつ再開していきたいと思っております。

さて、元々今春からの滞在を予定していたアーティストの魚住哲宏+魚住紀代美が、五月末現在、考えていることを文章として寄せてくれました。変化する状況の中で、できることを探っ



初めまして、みんなでいきます。

魚住哲宏+ 魚住紀代美

6月初旬〜8月初旬滞在予定

AIR
アーティスト・
イン・レジデンス

ていきます。今後スタジオや町で見かけた際には、距離を取りつつ、声をかけていただくと嬉しいですよ。

(池田あゆみ、金石21世紀美術館アシスタント・キュレーター)

ベルリンで子育てとアートに奮闘中

初めまして、魚住哲宏、魚住紀代美と申します。金石地区のアーティスト・イン・レジデンスプログラムでは三歳の娘を含めて三人で滞在させて頂きます。私たちは二〇〇五年から夫婦で一緒に作品を作っています。今は娘の幼稚園が休みの日だけになりましたが、できる限り三人でアトリエに通い、制作を行っています。私たちの作品を見てリアクションをくれる最初の人が娘です。もうすでにダメな時のリアクションも完璧です。育児と制作活動が常に同時進行です。

あまり聞き慣れないジャンルかもしれませんが、私たちはサウンドインスタレーション作品を主に発表しています。音とモノを空間に配置した作品です。

現地に赴き、そこで見つけた「日常の些細な出来事」の中

から作品化を試みています。二〇一二年より、街で聞こえてくる音とやらなくなった物を集めて作品を作る制作活動を始め、今までに、アイスランド、フィンランド、スウェーデン、一昨年には東アジア文化交流展「変容する家」にて金石で滞在制作をさせて頂きました。

新型コロナウィルス禍の影響

計画がゼロに近い状態に。今何をしたら良いのか、まだよくわかっていません。現地にいることで答えが出てくると思っております。

金石スタジオのお話を頂いた時には、とても嬉しく、あれもやりたい、これもやりたいと夫婦で盛り上がりつつありました。

昨年の十二月末には三日ほどでしたが、金石地区に滞在させて頂き、街の地図を片手に写真を撮って歩きました。街には情緒も生活感もある、とてつもなく長い防風壁まであり、街からもらえる要素はたくさんありました。私たちにとって新しい滞在制作の形をチャレンジしてみようと考えていました。

私たちの活動拠点ベルリン



何かあるぞ。なんだあれは、

で、そろそろ機材や道具を準備しようと考えていた頃に、新型コロナウィルス感染症が世界に広がり、状況は一転してしまいました。

今回の金石レジデンスでは金石地区の皆さんに参加していただく企画を考えていました。私たちは街に出歩き、街の中での人とのコミュニケーションによって企画が成立することを念頭に、「誰も知らない現実」をキーワードに掲げて、金石で感じたことは金石の外には持ち出せないような企画をイメージしてました。まさに今、ここで自分だけの特別な価値を街の皆さんと探していきたくて考えていました。

しかしベルリンで外出自粛の生活を経験する中で、私たちの企画はこの新型コロナウイルス禍の社会情勢の中で実施することは難しいのではないかと思ひ始めました。極力歩かないこと、人に会わないことなどの意識が高まる中で計画通り滞在制作ができるのか、不安を覚えるようになりました。

とにかく、金石に何うことが可能になり次第、伺いたいです。そこから考えさせてもらいたいと思います。意外と行ってみると自分たちが心配していたことのほどでも無くて、考えていたプランに少し変更を加えれば、ちょうど良くなるかもしれないし、これは！と新しいものが見つかるかもしれない。私たちは答えを自分たちの思考の中から探すよりも、外から探し出してくるタイプの人間なのだと実感しています。現地に赴けば、新型コロナウイルス禍の状況での滞在制作の落としどころが見えてくると期待しています。

滞在制作を始めたきっかけ
実は何がきてもウエルカムです。

私たちは元々、彫刻作品を作っていました。五年ほど経つと、作品が完成しても私たちにとっては意外性もなく、スタジオでの制作に退屈さを感じ始めていました。どんどんと作品が閉じられていき、二人だけの固執だけが残っていくように感じました。そこでスタジオの外に出ようと考えました。新しい素材を探したのが現地で集めた不用品でした。アイスランドでの初めての滞在制作では素材の集め方も不慣れでしたし、その村は三五世帯ぐらいの本当に小さな村でした。限られた素



スウェーデンの滞在制作にて、 chasing a little past, 2017

材で作品を作り上げるのには苦勞しました。自分たちの思い通りにならないことを諦めるのではなく受け入れることで現実を変化させていく作業に新鮮さがあり、今でもこの取り組みは続いています。さらに物資的な素材だけに限らず、街の人にインタビューした音声なども自分たちのコントロールできない素材として、作品に取り込んでいます。



「変容する家」にて集まった素材

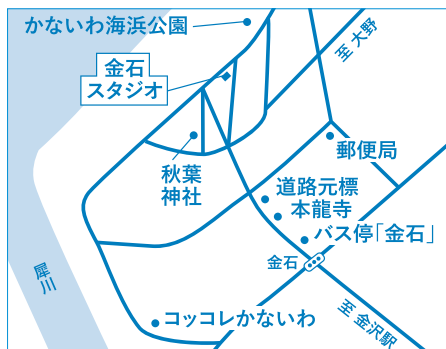
こんなご時世ですが、少しでも皆さんに楽しんでもらえるように滞在制作を進めていきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

まちがい探し

私たちの滞在制作では日常生活の中で生まれるズレや間違いが制作の起点になります。左の二つの写真のちがいは四つです。どこにあるでしょうか。答えは金石スタジオ 掲示板で！
(魚住哲宏+魚住紀代美)



ドローイング ちょっとズレる・鳥 2019



金石スタジオ
金石西2丁目17-23
バス停「金石」から歩いて5分、海岸通り沿いです。公共交通機関や徒歩、自転車などをご利用ください。

